

テーマ名：

演劇・映画をもとにした朗読劇（リーディング・パフォーマンス）にチャレンジ

担当者： 代表 先進科学系 山口均

機械システム系 住田光子

受入可能人数： 10人

実施予定場所： 合併教室および教員研究室

実施内容：

人文学分野における横断的・創造的学習の試みである。演劇はいまここにある1回限りのものを大切にする芸術だが、本科目では、ここにしかいない受講者と迫真の演技によって、朗読劇をプロデュースする。一から作品をつくりあげるのではなく、既にある演劇、小説、映画など、受講者の興味・関心に基づき、作り変える「素材」としての作品を選ぶことから始める。また、動作による演技でなく、本科目では、声や音だけで、表現の幅が広がるのかにチャレンジしてゆく。取り上げる作品は、日本語、英語、どちらの言語でも構わない。山口は、ラジオドラマの視点から助言をし、住田は、演劇的な視点から助言をする。科目を通して、受講者には、特に創造力、自己表現力、協調性が求められる。

演習計画：

(1) いくつかの候補作品の内容を把握し、取り上げる作品を選定する。

指導教員がいくつかの作品を推薦するが、受講者からも取り上げたい作品を募る。

並行して、作品を鑑賞する際に、作品の根底に流れているテーマを論じ、意見交換するなかで作品の多角的な理解を深める。

(2) 朗読劇の長さや配役、構成を決める。また、必要な道具を検討する。

あわせて、プロジェクトのスケジュールを作成する。

(3) 分担を決め、朗読劇の各シーンを再構成する。

(4) 台詞やナレーションの言葉を選んでゆく。または不要な部分を削除してゆく。

(5) メンバーによる台詞の読み合わせ練習

(6) 機材、小道具などの準備

(7) 朗読劇の上演と録音

(8) 可能であれば、他教員などのオーディエンスを招き作品を披露する。

各メンバーは、オーディエンスの反応を報告し、できあがった作品の講評をする。

(9) 本プロジェクトの振り返り

[作家、作品の例]

演劇：ベケット『ゴドーを待ちながら』、イプセン、ピランデッロ『作者を探す六人の登場人物』、シェイクスピア『夏の夜の夢』『ロミオとジュリエット』、ケラリーノ・サンドロヴィッチ『祈りと怪物』、ストッパード『アルカディア』『ハード・プロブレム』 **児童文学：**宮沢賢治

映画：『幸せのちから』『パディントン』『レインマン』『君に読む物語』『サブウェイ 123 激突』『クレイマー、クレイマー』『パパが遺した物語』『アバウト・タイム—愛おしい時間について』

小説：カズオイシグロ『わたしを離さないで』、シェリー『フランケンシュタイン』、

ステッドマン『海を照らす光』、壺井栄『二十四の瞳』